パートナー情報誌
香澄
かすみ
Kasumi

センター長新任ご挨拶　1P
霞ヶ浦エコフェスティバル 2025 開催のお知らせ　1P
パートナー研修会開催報告　2P
いきもののにわ通信　3P
R６魚類定点調査の報告　4P
R６後期図書紹介本一覧　5P. 6P
私の細道(その５３)　7P. 8P
編集後記　8P

パートナー情報誌　ＫＡＳＵＭＩ　第４３号（通巻８１号）発行日　令和７年７月３１日

センター長新任ご挨拶

本年４月にセンター長を拝命いたしました小岩でございます。

パートナーの皆様方におかれましては、常日頃より当センターの運営にご支援ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

私は当センターに着任しましてから、皆様方が野外観察などの環境学習や自然観察会、図書の読み聞かせ、展示室の水槽清掃、野外学習施設の環境整備などに献身的に取り組まれているところを拝見して大変ありがたく感じているところであり、パートナーの皆様方にはセンター事業の円滑な運営を行ううえで重要な役割を担っていただいていることを実感しているところでございます。

この４月に当センターが現在の場所に設置されてからちょうど二十年を迎えたところですが、これまでの間、水環境保全に取り組む総合的な拠点としての役割を果たすことができたのも皆様方のご尽力の賜物と考えております。今後とも当センターが重要な役割を果たすことができますよう、引続きご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

結びに、パートナーの皆さま一人ひとりへの心からの感謝とともに、パートナー情報誌「香澄」の益々の充実と皆様方の益々のご健勝ご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

茨城県霞ケ浦環境科学センター長　小岩　明彦

霞ヶ浦 ECO フェスティバル２０２５開催のお知らせ

来る８月 24 日（日）霞ヶ浦 ECO フェスティバル２０２５が開催されることになりました。環境に関する実験・体験・工作ブース、飲食店等、多くの団体にご協力いただく予定です。

本年度も多くの来場者が見込まれます。当日の運営に、パートナーの皆様にもご協力を賜ることもあるかと存じますが、その際は、どうぞよろしくお願いいたします。

（センター　圷）

「令和７年度パートナー研修会」開催報告

４月 25 日（金）に霞ケ浦環境科学センター研修室において「パートナー研修会」が開催されました。

この研修会はパートナー活動に必要な知識や技能を習得するとともに、日ごろ各グループ内で活動しているパートナー同士がグループを超えて交流を深めることを目的に開催しているものです。

本年度は小岩明彦センター長のご挨拶で始まり、昨年度パートナーが実施した霞ヶ浦湖岸の清掃活動、文献資料室の図書紹介や読み聞かせ活動、霞ヶ浦湖岸の植物定点観察活動など各グループより活動内容の報告がありました。各グループとも活動に熱心に取り組んでいる様子がうかがわれました。

その後、霞ケ浦環境科学センターの池田主査より「センターで行っているプランクトン観察体験やメダカの学校における観察機材の操作の仕方」について講義をいただきました。

日ごろ、交流の少ない他グループで活動しているパートナーやセンター職員が交流を深めることができた大変有意義な研修会となりました。

課題としては、年々参加者が減少していることがありますが、より充実したパートナー研修会として実施できるよう取り組みたいと思いますので、今回参加していただいた方も参加できなかった方も来年度実施の際にはぜひ参加していただきたいと思います。

（センター　樽見）

「いきもののにわ」通信

4 月 18 日の朝、上池のジャヤナギで蝶が群れて飛び交っていました。10 年前の秋、半島の付け根にすっと伸びた枝に葉を付けたヤナギの若木がありました。翌春に雌花を付け、ジャヤナギであることが分かりました。成長した木の樹液を吸っているのはサトキマダラヒカゲでした(右)が、湖岸では、幼虫の餌がヤナギ類の葉で親がこれに産卵するコムラサキが 5 月頃から見られます。雄は国蝶と言われるオオムラサキに似た美しい紫色の翅を持ちます。「いきもののにわ」で見られる日が楽しみです。

25 日にはサクラソウ(左)とホタルカズラ(右)が満開でした。これらは植物画家の三浦ひろ子さんが、昨年度から数回にわたり寄贈して下さったものの一部です。2023 年の特別展示「ボタニカルアートを通じて霞ヶ浦に生育する絶滅危惧種を考える」で日本植物画倶楽部会員である三浦さんの描かれたミズアオイも展示されました。そのモデルとなった植物の子孫も含まれていて、今年も細長い子葉を多数出し成長しています。寄贈植物の中にジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサがあり、6 月には基部に丸い膨らみがあるラッパ形の花を付けました(左)。鉢の外に新しい苗が育っていて、知らぬ間に開花・結実し、種をこぼして発芽したのかとわくわくしましたが、鉢の底から出た地下茎と繋がっていました。隣の鉢ではみ出さんばかりに育っていたハマナデシコも 6 月下旬に花を咲かせました(右)。

これらが元気に命を繋いでいるのにはいくつかの鍵があります。日当たりや水分など鉢の置き場所が植物に適していたこと、横に並んだ水草の水槽の水管理と一緒に普段の水かけをしていただいたことです。パートナーが参加する「いきもののにわ」整備活動は天候により、なかなか実施できないことが多いのですが、皆さんが慣れた手つきで除草や草刈りに精を出し、効率よく進みます。上池、浮葉・沈水・抽水植物の池やオニバス池、プランターやコンテナの周囲がきれいになると、霞ヶ浦に生育する水辺の植物達が観察し易く環境学習に役立ちます。

2 年前、小幡先生が一の瀬川のミクリの仲間を上池に植栽されました。今年 5 月に開花・結実し、ヤマトミクリであることが分かりました。現地では流水形で生育し花が見られず、ここで種名が判明しました。「いきもののにわ」の快挙です。

私達は一緒に整備活動をする仲間をお待ちしています。　　(パートナー　二階堂)

令和６年度（2024 年度）魚類定点調査の報告

センター近くの湖畔６地点で、２か月に１回、魚類調査および水質調査を継続して行っています。今回は令和６年度の調査結果について報告します。

調査地点６地点は、自然再生区 A 地区１地点（中岸 6.25km 付近）自然再生区 B 地区２地点（水神宮下中岸 6.50km 付近および 6.75km 付近）、自然再生区 F 区１地点（中岸 8.00km 付近）、自然再生区 I 地区１地点（センター下中岸 9.25km 付近）、川尻川ウェットランド１地点（中岸 9.75km 付近）となっています。

調査の結果は、魚の採捕数の合計や種の採捕数に増減はありますが、タイリクバラタナゴ、ツチフキ、ボラ、モツゴ、シラウオなどが上位を占めています。漁業の対象となる魚としてのワカサギの採捕数が令和６年度はわずか１個体という状況で、その減少傾向が心配されています。

表 1. 水質調査結果（6 地点の最高値と最低値）

測定項目	5月11日			7月13日			9月14日			11月9日			1月11日			3月8日		
天候		晴			晴			晴		快晴			快晴			曇り		
時刻	9:10	～	11:20	9:07	～	11:22	9:15	～	11:05	9:08	～	11:10	9:10	～	10:26	9:10	～	10:35
気温(℃)	22.1	～	20.8	31.8	～	28.8	34.3	～	31.0	18.1	～	13.4	2.8	～	1.9	8.2	～	6.0
水温(℃)	20.2	～	18.8	29.7	～	27.2	30.9	～	29.0	14.7	～	12.0	8.7	～	4.8	6.3	～	5.2
透視度(cm)	14	～	12	30	～	23	40	～	28	23	～	16	27	～	16	20	～	13
pH	8.3	～	8.0	8.2	～	7.7	8.4	～	7.7	7.8	～	7.3	7.5	～	7.4	8.6	～	7.9
EC(mS/m)	31.2	～	30.4	32.3	～	28.6	27.9	～	26.5	28.6	～	26.6	32.5	～	32.0	32.3	～	31.0

※EC：電気伝導度、水質を評価する数値として使い、数値が低いほど不純物が少ない。

表 2. 魚類等採捕数（6 地点の合計、各地点では投網を 4 回打つ）

種名	5月11日	7月13日	9月14日	11月9日	1月11日	3月8日	合計
タイリクバラタナゴ	181	24	48	21			274
ツチフキ		95	47	13	1		156
ボラ	82	21	1	4			108
シラウオ	1			41		9	51
ギンブナ	18	27	3	1			49
モツゴ	28	10	1	9		1	49
ブルーギル	19	11	4				34
オイカワ	17	1					18
ヌマチチブ	4	3	4	3			14
ハス	5		7	2			14
アシシロハゼ	4			2		5	11
ウキゴリ	4	1					5
オオタナゴ			3				3
アユ	1						1
オオクチバス		1					1
キンブナ	1						1
ニゴイ	1						1
ヨシノボリ		1					1
ワカサギ	1						1
魚類合計	367	195	118	96	1	15	792
テナガエビ	104	351	503	41			999
スジエビ	7	44					51
甲殻類合計	111	395	503	41	0	0	1050
合計	478	590	621	137	1	15	1842

（センター　小幡）

２０２４年度後期図書紹介本一覧

文献資料室新規購入図書を中心としたパートナーによる図書紹介本は、下表の 42 冊でした。

図書紹介の内容につきましては，２階交流サロンに有る「図書紹介一覧」ファイルをご覧下さい。

書　　名	著　者　名	出　版　社
共生する生きもの図鑑	サミ・ベイリー	原書房
大ピンチずかん	鈴木　のりたけ	小学館
大ピンチずかん２	鈴木　のりたけ	小学館
身のまわりの「危険物の科学」が一冊でまるごとわかる	齋藤　勝裕	ベレ出版
生きものがつくる美しい家	鈴木　まもる	エクスナレッジ
昆虫生活　つらいよ　研究所	今泉　忠明	主婦と生活社
栄養素キャラクター図鑑	田中　明・蒲池　桂子	日本図書センター
日本の湧水	日本地下水学会	朝倉書店
森に暮らし、鳥になった人。	柳生　博	講談社
動物のひみつ	アシュリー・ウォード 訳：夏目　大	ベレ出版
水のひみつ大研究 3　水と環境をみんなで守れ！	西嶋　渉	ポプラ社
水のひみつ大研究 5　世界の水の未来をつくれ！	西嶋　渉	ポプラ社
農家が教える　いもづくし	農文協　編	農文協
ファーブル昆虫記　誰も知らなかった楽しみ方	文：伊地知　英信 写真：海野　和男	草思社
日本は食料危機にどう備えるか	石坂　匡身　大串　和紀 中道　宏	農文協
はじめての野鳥図鑑	監修・絵：谷口　高司	JTB パブリッシング
水のひみつ大研究 2　使った水のゆくえを追え！	西嶋　渉	ポプラ社
自分だけの「フシギ」を見つけよう！	編集：NHK「カガクノミカタ」制作班 絵：ヨシタケシンスケ	NHK 出版
じめんのしたの小さなむし	たしろ　ちさと	福音館書店

書　　名	著　者　名	出版社
科学のなぜ？なに？さんぽ図鑑	本田　隆行	永岡書店
世界一たのしい観葉植物教室	くりと	KADOKAWA
ドングリのたんけん～ぼくの自然観察記～	おくやま　ひさし	少年写真新聞
絶滅動物物語	著者：うすくら　ふみ 監修：今泉　忠明	小学館
もうじきたべられるぼく	はせがわ　ゆうじ	中央公論出版
絶滅危惧昆虫図鑑	監修：丸山　宗利 写真：レヴィン・ビス	日経ナショナルジオグラフィック
虫めづる　ばぁばぁの　里山の虫図譜	本田　尚子	共同文化社
「鳥」の秘密事典	陳　湘静　林　大利	SB クリエイティブ
サメすご図鑑	佐藤　圭一	KADOKAWA
植物園へようこそ	国立科学博物館筑波実験植物園	岩波書店
最新図説　脱炭素の論点 2023～2024	共生エネルギー社会実装研究所	旬報社
真説・サメ　謎に満ちたすごい生態	田島　進（編）	日経ナショナルジオグラフィック
おうちで作れる実験スイーツレシピ	sachi_homemade	翔泳社
地学・資源・エネルギーのすごい話	ひつじさん	KADOKAWA
美しいトマトの科学図鑑	矢守　航　他	創元社
ちいさな「農」のある暮らし	多田　千里	主婦の友社
小学館の図鑑　プランクトン	山崎　博史	小学館
サクラハンドブック	大原　隆明	文一総合出版
15 歳からの地球温暖化　学校では教えてくれないファクトフルネス	杉山　大志	扶桑社
天気予報が楽しくなる「空のしくみ」	荒木　健太郎	朝日新聞出版
なんのふゆめ？　～しょくぶつ　これ、なあに？6～	斎木　健一　白坂　洋一	ポプラ社
クジラがしんだら	かわさき　しゅんいち 文：江口　絵理	童心社
もったいないばあさんのおばあちゃん	真珠　まりこ	講談社

（パートナー　浅野）

「私の細道」（その５３）　敦賀から大垣へ

敦賀の港に路通という男が大垣から芭蕉を迎えに来た。これまで実直な等栽に付き添われた福井-敦賀の旅であったが、ここで交代となる。芭蕉がこの「おくのほそ道」を始める折、当初は随行者としてこの斎部路通（いんべろつう）を考えていたようである。旅立ち直前に曾良に代わった。万事にいい加減な路通にはこの旅で芭蕉を世話することなど出来ないと、門人の反対にあったらしい。これに対して、実直な曾良は信頼できる。「鹿島詣」で同行した実績もある。結果的に曾良の選択は成功したのであろう。路通を選んでいたら、どんな旅となったか、途中で中断していたかもしれないと金森敦子はいう。芭蕉が乞食僧の路通と大津で初めて会ったのは 4 年前の「野ざらし紀行」の折であった。芭蕉は傲慢で奔放な路通を気に入っていたようである。後日、放蕩が過ぎて芭蕉から勘当されることになるが、芭蕉は死の間際に破門を解くと遺言している。斎部路通に通じるのは近現代の井上井月であり種田山頭火である。

芭蕉と路通は、木之本－小谷－春照－藤川－玉－関ケ原－垂井を経て、大垣に入ったと推定される。どんな旅をしたのであろうか。芭蕉も特にこの間の状況は触れていない。

さて、敦賀で宿泊した我々夫婦と義姉夫婦の４人は、今回の旅の３日目、2023 年 8 月 31 日の朝、まず芭蕉らが夜参したという気比神宮に詣でた。芭蕉像や句碑もあり、この章段に記載の「遊行の砂持ち」かくやと思える整備された宮姿を保っている。

続いて、金前寺に向かい、金ヶ崎城跡の碑、芭蕉翁鐘塚を一見した後、敦賀を発った。一路南へ 20 分位であろうか、義兄が「そば屋に着いたよ」という。「名物とろろそば孫兵衛」の看板が出ている。

蕎麦屋「孫兵衛」

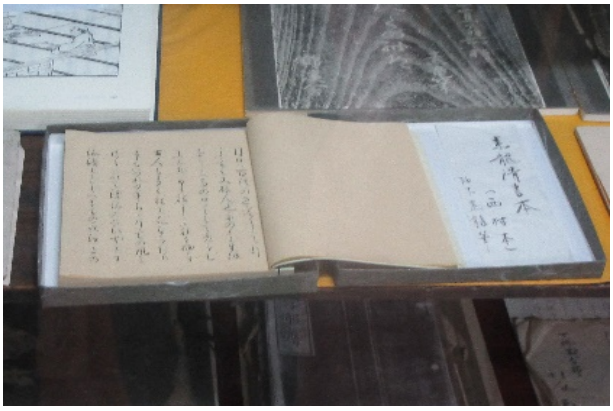
実は、この旅の計画段階に、義兄から「芭蕉関連で西村家というのがあるのだけれど」と問われた。「おくのほそ道」諸本のなかの「西村本」は聞きかじっていたが、関係あるのかなあと調べてみると、この西村本は西村家から発見されたのでその名が付いたと記されている。しかも、芭蕉らが敦賀→木之本間で通ったであろう道付近らしい。実際、この間、芭蕉と路通がどのような行程を進んだかを記したものはない。

西村家は重厚な藁ぶき屋根の民家で峠の茶屋風、「とろろそば孫兵衛」の看板がある。店に入って、係の女性に「おくのほそ道の西村本ゆかりの蕎麦屋と聞いたのですが・・」と芭蕉を追ってここまで来たと言えば、奥の厨房にいた中年の男性がこちらを見て、どうぞどうぞと案内してくれる。西村家 16 代当主西村久雄氏であった。

壁際の一角に、資料や由緒ありそうな壺、般若面、関連書籍が陳列されており、丁寧な説明を受けた。国指定重要文化財となっている能書家柏木素龍（そりゅう）直筆の「おくのほそ道」が当家に所蔵されており、その復刻版が展示されている。またその横には、柿衛本（原本は

天理図書館蔵）の復刻版の展示もなされている。

このご主人から、「おくのほそ道伝来」という 1 枚の流れ図を頂き、西村本が当家保存となった経緯の説明を受けた。この素龍清書本は、芭蕉の遺言によりまず向井去来が所有し、ついでその親戚縁で次々渡り、西村家 10 代目の西村野鶴（やかく）へと受け継がれたとのことである。実は前日、敦賀市立博物館でこの復刻版を妻に勧められて買ったのであった。「ほら良かったでしょ」とは自慢げな妻の顔。



西村本　展示

長年西村家に保存されていたが、昭和 9 年に地元史談会によって新聞に発表されたことがあり、昭和 18 年（芭蕉 250 回忌）に穎原退蔵の鑑定を受けて、西村本として学会に公表されたと尾形仂の解説にある。この昭和 18 年には曾良の随行日記も山本六丁子によって世に公表されている。

さらに、こんなものと言ってご主人が持って来られたのは、小瓶に入った砂に隠れた肌色の小貝。「色の浜に行かれたのであれば、拾うことが出来たのに」と。そういえば、前号でも記したように「おくのほそ道」の「種の浜」の章段に「ますほの小貝」として書かれていた。「よければ持っていきなさい」とその小瓶を頂いた。美味しい蕎麦を啜りつつ、興味深い話に聞き入り、暫しの楽しい時間であった。ところが、我々が訪問した 3 ケ月後に、西村氏がこのお店を閉店されたことを、最近ネットで知った。ご事情もあろう、唐突なことではあるが、面談させて頂いたひと時のことは忘れられない。

いよいよ大垣へと向かう。一路、大垣へ・・・次回は結びの地、大垣・・・・

（パートナー　小松）

＊＊＊＜編集後記＞＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

異常気象の定義は、「30 年に 1 回以下の頻度で発生する現象」とのこと。繰り返されれば、異常は日常になるのか。「最高気温が更新された」と聞いても特に驚きはない、予測に難くなかったゆえ。

夏暑いのは当たり前だし、嫌でも冬はやってくる、その移ろいは暦に記され、日常や農事、行事の目安となっていた。古よりの経験則に基づいて、規則正しく。水の循環もまた、それに伴い、時期と場所が選ばれていた。人類は、それに従い順応してきたのである。
大国の為政者達には、著しい異常が見えていないのか、自国の利益にのみ従順にみえる。今だけ、ここだけ、自分だけなのである。異常を肌で感じ、その要因を排し、対策を講じている弱者とされている途上国の賢明な市民の努力は、儚くも相殺されてしまう。

香澄通巻 81 号は、執筆者の皆様のお陰で 8 頁を確保することができました。原稿をご提供下さいました皆様、有難うございました。

暑さ増す折り、読者の皆様には、体調にご配慮頂き、健やかに過ごされますことお願い申し上げます。　（パートナー　栗原）

「香澄」編集委員会　：浅野明宏、有吉潔、栗原繁、樽見博文